

議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和5年2月17日（金）
13時30分～15時33分
全 員 協 議 会 室

【出席者】 三浦委員長、村武副委員長、
肥後委員、村木委員、大谷委員、沖田委員、川上委員、小川委員、
上野委員、川神委員

【議長団】 笹田議長

【事務局】 河上局長、小寺書記

議題

- 1 はまだ議会だよりVol. 69について…………… 資料1
 - (1) ページレイアウト
 - (2) 掲載記事及び原稿提出締切
 - (3) その他

- 2 はまだ議会だよりminiについて…………… 資料2
 - (1) 第20号掲載内容及び原稿担当
 - (2) その他

- 3 議会報告会について…………… 資料3
 - (1) 実施方法詳細協議
 - (2) その他

- 4 広報広聴の取組について…………… 資料4
 - (1) 令和5年度の取組
 - (2) その他

- 5 その他

【次回委員会開催予定日】 令和5年3月2日（木） 個人一般質問終了後から

【議事の経過】

[13時 30分 開議]

三浦委員長 議会広報広聴委員会を始める。出席委員は10名で定足数に達している。本日の議題は配信のとおり、その他含めて5項目である。順次進めていきたい。

1. はまだ議会だよりVol. 69について

(1) ページレイアウト

三浦委員長 小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記 (以下、資料をもとに説明)

三浦委員長 レイアウトに関して意見があれば何う。協議する必要があるのが読者アンケートについて。現在は質問用紙として半ページくらいあるが、ボックスはそのまま設置しつつ質問用紙をまちづくりセンターに常設するような形で、ページを空けるといった意見も出ていたように思うが、どうだろうか。

肥後委員 メールでの回答はあったが紙ベースでの回答が少ないのと、加えてページを切り取るのは嫌だという意見があった。回答したい方は各まちづくりセンターへ行って、記入されるほうがよい。

上野委員 ページを切り取るより紙が用意してあったほうがよいという意見をもらったので、ぜひ用紙を準備したい。そうすればまちづくりセンター職員も言いやすいと思う。

沖田委員 自分も肥後委員の意見に近いのだが、紙での回答は過去の実績を見てもあまり見られないのがまず1点。意見箱のようなものなので、現地に用紙が用意してあるのがより親切のような気もしている。

三浦委員長 これまでの返答はオンラインのものが多かったことと、各委員会からこういった設問を設けてほしいという希望もずっと出ておらず、自由回答を求めるような形の設問が続いているため、そういった意味ではボックスはそのまま設置して、ご意見を賜うような用紙を設置するような形に変えて。いただいた意見をここで紹介していくような感じで整理するということによろしいか。ボックスにいただいた意見があれば紙面でお返ししていくという形で整理させていただくということによろしいか。

小寺書記

(「異議なし」という声あり)

置いてあるボックスの整理ということになると思うので、3月頭に2月に出ているV o 1 . 68の回答のご確認をまたお願いするところだが、その際に箱も一緒に回収いただいて。今箱は「読者アンケート回答ボックス」となっているが、名前はまた考えるが直してまた配置するというやり方になるかと思う。また回答用紙も併設する形になると思う。3月頭の回収の際には委員にご協力をお願いする。

三浦委員長

肥後委員が言われたようにオンラインの回答は結構あるので、オンラインをどのようにするか。今はしまね電子申請サービスを使っているのだが、これを例えば、議会だよりには「電子申請サービスから議会に要望が伝えられる」という形で設けるのか、もうやめてしまうのかを、また一度ご確認いただければと思う。

今説明いただいた形で、オンラインでご意見や要望を受けるとなると、今議会は議長なんでもメールという形で受けているが、そういったところも整理していかないと機能が重複するかと思う。一旦その議論は後に回させてもらい、ここでは紙面における読者アンケートのところは、今回は68号に寄せられた意見への回答を載せて、半分空くので、委員会代表質問が2委員会出たので調整し、そのような紙面割にしたいと思うがよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

感謝する。そのほかあるか。

(「なし」という声あり)

(2) 掲載記事及び原稿提出締切

三浦委員長

小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

担当者を上から決めていきたい。

《 以下担当者決定協議 》

三浦委員長

市民対談で取り上げるテーマについて。今議会で取り扱っているものや、着目すべきテーマがあれば出してほしい。

村武副委員長

議連も立ち上がったのだが、子ども条例についての活動をされている、まちの縁側の栗栖さんがよいと思う。

三浦委員長

ほかにはどうだろうか。関心があるテーマがあればぜひ。考え

る時間を取りたいので暫時休憩する。

[13時 51分 休憩]

[13時 59分 再開]

三浦委員長

委員会を再開する。引き続き市民対談のテーマについて協議したい。提案をよろしく願います。

小川委員

福祉環境委員会では就労支援を含む障がい者支援というテーマで取り組んでいる。その前段としてまず手始めに、教育現場の声や状態をつかみたいということで、ろう学校や養護学校を回らせてもらっているが、たまたま今朝の新聞に、ろう学校の卓球で活躍しておられるという記事が載っていた。特にろう学校の学生はスポーツを通じて健聴者とのコミュニケーションを大切にされている。こういうのはどうかと思う。

三浦委員長

常任委員会で取り組まれているとのことなので、むしろ紙面を使って委員会や議会の取組を伝えるのはよいと思う。皆はどうだろうか。よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

では小川委員からご提案いただいた、ろう学校におけるスポーツを通じた生徒の活動をテーマにしてご紹介するということにしたい。小川委員、取材にもご協力いただけるだろうか。

小川委員

はい。

三浦委員長

感謝する。福祉環境委員は行かれていると思うが、別の委員会から行かれるのもよいと思うがどうか。

沖田委員

はい。

三浦委員長

では沖田委員と小川委員に願います。撮影は私が同行する。3人で対応したい。

次は委員会活動レポートについて。

《 以下担当者決定協議 》

三浦委員長

では議会注目事業の概要と着眼点について、大谷委員、村木委員、上野委員。議会広報広聴委員会からのお知らせは正副委員長と事務局とで作成する。市民対談は小川委員、沖田委員、写真は私がさせていただく。委員会活動レポートは沖田委員、村木委員、川上委員、肥後委員、小川委員、村武副委員長に願います。

小寺書記 後書きは順番で沖田委員にお願いしたい。
三浦委員長 ではそのようにお願いします。

(3) その他

三浦委員長 はまだ議会だよりについてほかに。
(「なし」という声あり)

2. はまだ議会だよりminiについて

(1) 第20号掲載内容及び原稿担当

三浦委員長 小寺書記から説明をお願いします。
小寺書記 (以下、資料をもとに説明)

三浦委員長 ではテーマを決めたい。本紙の掲載内容も考慮いただきながらご意見を頂戴したい。2項目くらいなので、どれを優先するか。県立大学との共同研究報告はどこかできちんとやったほうがよいと思うのだがどうだろうか、miniに一旦載せるか。であればどのような取組をやったか報告することはあると思うので、全部これに充ててもよいと思う。よろしいか。
(「異議なし」という声あり)

三浦委員長 では県立大学との共同研究の報告を2項目分で掲載するという
ことで。原稿はどうでしょうか。

小寺書記 インターンも対応されたお三方でどうか。

三浦委員長 では正副委員長と肥後委員の3人で割り振りしながら担当させて
いただく。

小寺書記 あとは議員のつぶやきと議長日誌。議長日誌はまた協議いた
だいて作成をお願いします。議員のつぶやきはどうか。無理や
りお願いするものではないので、つぶやきたい方がおられたら。
石見神楽の議連設立の報告はどこかでさせていただこうか。本紙
で触れたほうがよいだろうか。せっかくなのでもし本紙で紙面が
あればどうかと思ったのだが。配信された資料によると半ページ
くらいか。今回のレイアウトだと半ページは難しい。次号で紹介
しようか。せっかくの活動なので。会長よろしいか。次にぜひと
いうことで。話を戻すが、つぶやきはどうか。

小寺書記 昨年は市子桜だったので、例えば三隅の桜などはどうか。
三浦委員長 4月1日発行であるし。手が挙がらないようなので私がつぶやく。

ではそのように進めたい。

(2) その他

三浦委員長

m i n i は以上でよろしいか。何かほかにあるか。
(「なし」という声あり)

3. 議会報告会について

(1) 実施方法詳細協議

三浦委員長

配信された資料の説明を小寺書記から願います。

小寺書記

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員長

上から順に協議していきたい。まず名称についてご意見をいただきたい。

川上委員

市民の声を聴く会となっているので、これでよい。

川神委員

報告会では堅苦しいし、あくまでも広聴機能を高めるものなので、地域井戸端会でも悪くないのだが、ダイレクトに市民の声を聴く会というのがストレートでよい気がしている。

三浦委員長

ハイブリッドで、地域の方々の声を聴きます、地域井戸端会というのでも両方伝えられると思う。地域井戸端会を推薦するわけではないが、かつて地域に出向いて地域の方々の意見を聴くという意味では、地域井戸端会という名称を数年使ってきた過去があると思うので、地域の方々もなじみがあると言えばあるかもしれない。そういったことも含めてご協議いただければ。

小川委員

先ほどの委員長の意見がよかった。聞きなれた地域井戸端会という名前と括弧して市民の声を聴く会というようにしたらわかりやすい。

大谷委員

こだわるつもりではないが、市民の方々に継続的な会だというニュアンスが伝わるような意味合いからして、地域井戸端会という流れであるなら括弧書きでもよいのでどこかに加えておいたほうが、流れという面が伝わってよい。

川上委員

せっかくハイブリッドの話が出たので、それでよいと思う。

三浦委員長

そうしたら、市民の声を聴きますとか、目的が広聴機能を持った会であることがしっかりわかるように、地域井戸端会ということで、継続性も担保して。両案取ってそのような形で企画したい。会場なのだが、すすくと、サブセンターが設置されるという

川上委員

ことで、長沢地区あたりでどこか一つと検討してみた。全体的なことも含めて、皆から開催地について意見を。

私の地元なので、今後サブセンターの設置の話などいろいろな流れがある中で、あのあたりの住民の声を拾うのはとても大事で、大変ありがたい話である。場所はどこがよいのかに関して、少し検討しないと。生湯という大きな新興住宅もあるので、総合的に考えると、そちらに少し近いところでよい場所があればということも検討させていただければと思う。

三浦委員長

赤字のところも含めて合計28会場なので、次に議論する3人ずつ7班に分けたときに、1班あたり4会場になる。どうだろうか。特にご意見がなければ。よろしいか。

(「はい」という声あり)

では長沢、あるいは生湯、サブセンターが設置されることも想定して、そのあたりはどこで開くのがよいか、川神委員にも相談しながらこの近辺で一つ場所を選定し、すくすくも入れて全28会場ということで進めたい。よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

1時間経過したので暫時休憩する。

[14時 26分 休憩]

[14時 33分 再開]

三浦委員長

委員会を再開する。引き続き議会報告会の協議である。続いて班員について。総務文教委員会・福祉環境委員会・産業建設委員会から1名ずつで7班という構成になっている。これについて皆から意見があるか。

(「なし」という声あり)

ではこれで進めよう。次が実施期間である。5月13日から6月4日ということだが、開催曜日は決まってないので、それも各班で協議いただくことになると思う。開催時間もそれぞれのまちづくりセンター等と協議して決めていただくことになると思う。各班分かれて進めていくことになると思うので、同日同時間に複数箇所で開催されるケースも、場合によっては想定される。この実施期間、調整方法も含めて皆から意見があれば伺う。

- 川上委員 28会場で7班なので1班がどこどこ、という形で分けてもらったほうがよい。
- 三浦委員長 班が先ほど確定したので、これからエリアの割り振りを事務局で行うということか。
- 小寺書記 はい。
- 三浦委員長 日程調整もあると思うので、早い段階で割り振りしたい。
- 川上委員 であれば、あとは各班にお任せいただく形でよいと思うが。
- 三浦委員長 それで問題ないか。
- (「はい」という声あり)
- では実施期間については先ほど述べた形で各班に進めていただく。調整が早期に取り掛かれるようにできるだけ早く事務局と相談して、各班の割り当てエリアを確定してご案内したい。そこは我々にご一任いただく形でお願いしたい。
- それから意見の取扱いについて。先般全員協議会にてこの件について報告したときにも、意見の取扱いについてはきちんと協議いただきたいという意見をいただいていた。報告書を作成することと、その場で出た意見を持ち帰って所管委員会へ振り分ける。一日議会で行っているような手法になると思う。最終的に戻す方法としては、その回答を実施会場に掲示するという案にさせてもらっている。皆から意見を伺いたい。
- 大谷委員 意見の取扱いについては今説明のあった内容でよいと思う。ただ、どのようにメンバーが集まってどのような論議になるか、地域差があると思う。一個人の意見をどの程度、その場の意見として取り上げるかは、その場の雰囲気もあると思うので、どう扱うかある程度線をそろえておいたほうがよいのでは。
- 三浦委員長 皆はいかがか。大谷委員、例えばどのあたりで線引きしたらよいと思うか。
- 大谷委員 何人集まるかにもよるが、個人的なというニュアンス部分はやはり違うだろう。地域にかかわる、ある程度広い視点の中での意見を取り上げるべきだろうと思う。具体的に例がない中では申し上げにくいですが、そういう感覚でいる。
- 川上委員 各班3人なので、どなたかが代表的な形で置かれると思う。ご意見を伺った場合、たくさんの意見も分類できると思う。その分類はその場でやって、これとこれについてはこういう形で、と采

配されるのがよい。これについては持ち帰って委員会を開きたいとか、今後やりたいとか。

三浦委員長

先ほど大谷委員が言われたように、地域性もあるかもしれないが個人性もあるので、その辺はこだわらなくてもよいと思う。

意見の取扱いについて協議いただいているが、進め方として例えばこちらからテーマをあらかじめ設定して、それを投げかけるとそれに対する意見が返ってくるというような話だと思うが、本当に自由にご意見を述べてもらうとなると先ほど大谷委員がおっしゃったように、個人のご意見もあれば地域内で出ている声を拾って出される方もいるだろう。どういうテーマ設定や問いかけ方がよいかも、併せて伺いたいがどうか。テーマを絞ればその分自由に言える時間は少なくなるので、一長一短かとは思いますが。

川神委員

テーマを絞るとそれに興味がないとか関係ないと思う人間の口は重くなり、なかなか活発な議論ができない。ばらばらにすると收拾がつかなくなり、結局何の話なのか、個人の要望事項や、個人的な行政に対する不平不満が出たりするので、なかなか難しいところだが。この前行ったときはある程度事前に代表者から1、2点テーマ設定をしてもらった。それでもなかなか時間はないが、本当に望ましいのは、2時間あるなら一つはその地域の共通課題みたいなものを選んで、残り半分はフリーディスカッションのようにやる。時間がないがすみ分けするような取組はどうかと考えたこともある。それは行く班の空気感で変わると思う。ただ、やはりテーマは少し持っていくほうがよい気はしている。

全国の話などを見ていると、そういうことをやってもほとんど人が来ない。やはり田舎で数名ほど、いつも同じ人間が来て終わりだと。ただ、市で結構問題になっているもの、今だとゆうひパーク浜田の件や、生活に直結するようなものをテーマにして話そうとすると莫大な人間が来て活発になったというケースもある。やはり何に対して関心があるか。ある程度テーマ設定をするのが有効かと思う。

沖田委員

テーマ設定がないというのは個人の見解や意見を述べられるので、さすがに議会としてかなわないというのはある。一方、地域課題というテーマで何度かやったときに、来場者から違うことを言いたいという意見が出た地域も当然あった。とはいえ何らかの

テーマは必要だろう。そう考えたときに、何のためにまちづくりセンター単位にしたかとなると、やはり地域について話さないかというやんわりした入り口でやって、その他自由に話す時間を少し設けるというやり方が、今考える中では一番よいかと思う。

肥後委員

議会報告会の名称を「市民の声を聴く会（地域井戸端会）」にして継続性を示したわけだが、議会側からテーマを設定するのと、地域の方の意見を聴く。これこそハイブリッドで、2時間あれば1時間ずつにしたり、30分と1時間半にしたり、そうしてもよいのでは。必ずしも時間内に回答を確実に出さなくてもよいのでは。一旦持ち帰って再度掲示して回答する。議員がその場でやり込める形になると、言いたいことは言ったが意見が通らなかったように見えて、余計に参加者が少なくなるのではと思った。

三浦委員長

テーマ設定をすることのメリット、しないことのメリット、それぞれあると思う。例えば3常任委員会からそれぞれ出ておられるので、各委員会でこういうことを地域の方に聞いてみようではないかというようなテーマ設定を持ってそこに参加していただくのと、自由に地域の方からご意見を伺うという、大きく分けて2部構成なのか。テーマを設ける部分と、設けず皆から意見を聞く部分を分けて実施するという形という印象なのだが。

大谷委員

ハイブリッドという話もあった。当然出向いて最初の挨拶の中で、現状について3名の役割を担った方が議会の現状に触れていくというのは当然あると思う。仮に2部構成なのであれば、こちらから伺いたい意見として仮にテーマを設定しながら前半を行い、後半については地域の状況について聞かせていただく。1時間で10人以上の発言を聴くのは難しいと思うので、ワークショップ形式のように3班に分かれて、その中で意見を出してもらい、そのメンバー内で意見交換しながら、共通のテーマを持ち帰らせていただくといった手法もありかと思う。そうすることで参加者が、全体場で発言はなくても、ワークショップ内で意見を表明して、全体の声もお互いにやり取りして、地域の雰囲気もお互いに感じ合うことにもなるかと思うので、そういった形態はいかがか。

三浦委員長

大谷委員からワークショップ型でとの提案が出た。ワークショップ型になると各テーブルに1名の議員が座り、取りまとめることになると思う。どうか。

小川委員

福祉環境委員会が先ほど言ったようなテーマに取り組んでいる根底には、浜田市障がいのある人もない人も共に生きることができるまちづくり条例ができたことがある。実際に条例があっても障がいのある方にとって社会保障や公的配慮はどうか、最終的には就労活動を含む支援という形について、条例どおりのまちづくりになっているかについて、一般市民からの意見を聞いたことがないので、そういうテーマで聞いてみたい。このように常任委員会からテーマを出す方法もある。

沖田委員

大谷委員が言われたようにグループに分かれるのが非常によいかと思うが、ただ会場によっては分けるまでもなく数名しか来ないケースが往々にしてある。一方30人来るところもある。ケースバイケースではないか。原則グループに分かれることにしておいて、例えば10人以下なら1グループでやろうとか、何となく決めておけば。テーマもこれ一つと決めるのではなく、議員によっては逆に尋ねたいケースもあろうかと思うので。最初からこれと決めなくても、まずは柔軟にやらせてもらうのがよいかと思う。

川上委員

沖田委員が言うように柔軟性を持ったほうがよい。以前旭でワークショップをやった際、違うグループから私もそちらの話が聞きたかったという声があった。テーマについても、これでなければならんという形にせず、グループごとに考えていただく。そのために班編成するのだから、それでよいのでは。

村木委員

グループ討議は意見が出しやすいと思う。ただ、やる側にとってみると進行しながら記録も取りながらまとめながらなので結構しんどいという気持ちもなくはない。最初にテーマがあると話しやすいので、最初はテーマがあって、最後はフリートークでよい。

三浦委員長

こちらから投げかけるテーマのようなものも設けながら、各常任委員会から出ているので、そういった場を有効活用していただく。かつ地域の方から自由にご意見をいただく時間も必要ではないかとのことなので、そういう時間も設ける。ただしワークショップ型でやるのか、一会場まとめてやるのかは会場の状況を見ながら、各班の裁量で行っていただくという形かと思うのだがどうだろうか。よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのような形で。事前に各常任委員会でテーマを共有いた

だいておく必要があるかと思う。そのあたりは各委員長にお願いすることになると思う。

進行の仕方は今の協議の内容でよいと思うが、意見の取扱いについてはどうだろうか。そこで出た意見を持ち帰り委員会に振り分ける作業をどのようにするか。

川上委員

3常任委員会が必ず行くので、班内で振り分けて自分の委員会で確認すればよいのでは。

河上局長

大枠が決まったので、詳細は次回打ち合わせをするのはどうだろうか。

三浦委員長

では、大まかな方向性は今日確定できたので、今日改めて協議する中で出てきた疑問点などを踏まえ、次回もう少し詳細を詰めたい。皆も意見をまとめて持ち寄ってほしい。

村木委員

実施期間は5月13日から6月4日で、各班で会場調整をやる。基本的には班メンバー3人の都合と会場の都合で決めてもよいのか。

三浦委員長

そうなると思うが、会場となるまちづくりセンターの方とも協議して調整いただく形になるかと思う。

(2) その他

三浦委員長

ほかに。なければ議会報告会については以上で終えたい。

4. 広報広聴の取組について

(1) 令和5年度の取組

三浦委員長

資料を見てほしい。

(以下、資料をもとに説明)

はまだ市民一日議会の3回目を行うかどうか大きな活動計画になると思うので、その点を協議したい。またこれに加えてさらに取り組みたいということも含め、意見があれば伺いたい。

川上委員

一日議会はぜひ継続的にやっていただければと思う。時期はこれまで同様でよい。

大谷委員

市民一日議会については会派内で意見を聞いている。2回目のような状況であればやったほうがよいとのことだった。とりわけ若い層の意見が聴けたことについてはよかったので、初めての方を優先する方向はよかったのでは。

三浦委員長

私の説明が足りなかった。先ほど配信された資料の2枚目もご

らんになっているかと思う。先ほど議会だよりやminiの話をした。改めて上からで、はまだ議会だよりのことは説明した、議会報告会は一応再開でこのような形を取らせてもらっている。ホームページの更新は事務局を中心に随時やってもらっている。YouTubeとは今の市議会のYouTubeチャンネルのことで、既に開設されているが、新しいことをどうするか、SNSを使った情報発信をどうするかは協議事項として出ているので、これは継続して検討していく必要があるかと思う。議長なんでもメールは、先ほどのアンケートのことも踏まえてこの後協議したい。請願・陳情はこのまま継続で行う。議会だよりのアンケートについては今日協議いただいた。市民一日議会の件も含めて今意見をいただいている。高校生との意見交換会も沖田委員からご提案いただいている。これも検討する必要があるかと思うが、まだ結論が出てないため今回のスケジュールには入れてない。オンライン広聴会も継続的な検討が必要だと思っている。

改めて皆に意見を伺いたい。一日議会の実施というのが計画内に仮で入っているので、その実施をすべきかどうかと、併せてその他の活動についてもご意見を頂戴したい。

沖田委員

はまだ市民一日議会は2回目の開催を非常によい形で終えたと思う。個人的には3回目をやるべきと思っている。検討・再検討についてだが、SNSによる情報発信だが、県大の学生が来て講習してくれた。身近なツールなので高校などでも情報発信などしているし、浜田市議会はむしろ後れているくらいの気がしている。個人的にこの検討項目に優先順位をつけるなら、まずはここかという気がしている。

上野委員

一日議会は初めての方を優先して今後続けていただきたい。SNSについてはわからない。

川上委員

一日議会をやっていただけるという前提で、もう少し時間があるので高校生との意見交換会もやる。今回は高校生に聴くとか中学生に聴くとかいう形でやってもよい気がする。

肥後委員

市民一日議会は3回目を継続してほしい。新たな取組も時期を考えないといけないかもしれないが、2回目のときに初めて参加される方は若い方が多くて、新鮮な意見やすばらしい考え方もあり、今後の浜田市もすごく楽しみだと思った。

村武副委員長

それに併せて若い方はSNSによる情報発信、まず一番考えられるのは、自分が作成する手間はあるが費用がかからないことと、見たい人がいつでもどこでも見られるのはすごく便利だと思う。ただ気をつけないといけないのが、投稿記事の内容については議会として発信するので、間違いがないよう精査する必要があるかと思う。これは今すぐに取り組まないといけないのではと思う。

はまだ市民一日議会については皆と同じように来年度もやっていけたらと思っている。再検討のところにSNSでの情報発信と上がっている。私も以前からこれについては提案などしていた。先ほど沖田委員が言われたように、県立大学の学生ともいろいろ進めてきたこともあるので、ぜひ進めていけたらと思う。

議会改革推進特別委員会でも大学との連携事業についても視察した。まだはっきりしたことは決まってないが、来年度に県立大学と連携して何かやっていけたらよいのではという意見もあった。もし可能なら、SNSの情報発信に関しても県立大学生といろいろ協議しながら手伝っていただける部分は手伝っていただきながら進めていけたらよい。

村木委員

一日議会については今年度のような形でぜひ3回目と思っている。県立大学生やリハビリテーションカレッジ島根の方々を対象としたものも必要かと改めて思った。SNSの関係だが、主権者教育、このたびも共同研究内の主権者教育、結果的にはSNSなど幅が広がったが、今回の計画にあるとおり今後も主権者教育についてはここで取り組んでいきたい。

小川委員

一日議会については1回目のやり方に課題があって結構議論している。2回目できるのだろうかという不安もあったがそこは議論の中でかなり工夫され、皆から評価があった。継続していこうという方向になっている。ぜひ続けていただきたい。

前々回から沖田委員から提案があったが、もう少し具体化して実現可能なところまで仕上げたらよいのでは。自分も先般県立大学生と直接意見交換ができた。なかなか日常の中でできることではない。あのような場があると初めて、一つのテーマに基づいてお互いの意見交換ができて有意義だった。主権者教育といった大きなテーマというより、議会と県立大学生との意見交換ができるように。この間から議会改革推進特別委員会の中でも少し議論に

なっているのは、パートナーシップ包括協定みたいなものを視野に入れながら、意見交換が恒常的にできれば、よりよくなるというイメージはあるのだが、そこまでは進んでない。せっかくある大学の知見を利活用するという視点も大事だが、大学生と議会との関係は大事にしたい。皆住民票を浜田に移し、市民として来られているという意味では、せっかく地元を離れて来られた子たちとの接点であり、より増やしたほうがよい。

SNSはせっかく教えてもらったのだが、私自身全く活用できてない。一方、拡散しているのは感じる。しかし記事を上げるところに到達していない。具体的な提案があれば、それに基づいて判断できるのだが、私から能動的にということには至ってない。

沖田委員

高校生との意見交換会を自分で立ち上げておいて、何がSNS最優先だと思われる方もおられると思う。県立大学生からSNSについての講習を受けたときに、大学生という若い子たちが議会というハードルが高い人たちを知るのに、こういったもので初めて見えてくる、知って入りやすくなるのだと冒頭に言われたと思う。その意見を僕はすごく重要だと思っている。高校生などの若者たちにこちらからアプローチをかけるのに、ここでこういうのをやるのでぜひ来てくれというやり方では、今の時代なかなか厳しいかと。せっかく議会として大学生に来てもらって受講したことを重く受け、その後にInstagramを始められた議員もいる。自分もその一人である。そこをもう少し強めていくのが高校生や大学生へのアプローチかなと思っている。

三浦委員長

一日議会については皆から2回目いろいろな課題も改善できて、そういった場を継続的に持つべきではないかという意見だったので、秋に第3回目を実施する方向で検討していくよう、計画書に入れ込みたい。

またそれぞれの意見を伺うと、主権者教育という固い雰囲気ではなく大学生あるいは高校生との接点づくりをすることが重要ではないかという意見も多々あったかと思う。どのようにそういう場を継続的に提供していくかはもう少し議論が必要だと思う。手法も含めて検討していく。加えてSNS等を活用した情報発信の仕組みについても、どういう点に注意しながら議会で運営しているかは議論したほうがよいという意見が多かったように思う。

手法や効果についても改めて継続して議論していく。今後1年間の活動はそのような形でよろしいか。

大谷委員

検討していくことについて異論はない。SNSを使うことについて、時代の流れという点は理解しているしそういう方向であろうとは思いますが、SNSで議会として発信するかと、各議員がするかどうかは別だと思う。議会としてするといったときには、どういう目的で、どういう内容で、どういう効果を狙うかといったことも含めてしっかり合意をつくった上でやるための議論は当然必要である。しっかり論議していきたい。ただ、繰り返すが個人がやっている部分と議会としてやる部分とでは大きな違いがあるかと思う。そこはしっかり詰めるようお願いしたい。

三浦委員長

あくまで議会としての取組を協議する場なので、そのあたりの効果やどういう体制でそれをやっていくのか、なかなかそれを運営するのは難しいのではとか。それも含めて、やることありきの議論ではないので、しっかり議論していければと思っている。

令和5年度の取組については、皆のご意見も踏まえてこのような形で進めていきたい。

(2) その他

三浦委員長

何かあるか。

(「なし」という声あり)

三浦委員長

小寺書記からお願いします。

小寺書記

令和5年度の取組についてはまた全員協議会で全議員にお知らせしようと思っている。3月17日くらいをめどにできればと思っている。

5. その他

小寺書記

次の委員会日程について。先ほど読者アンケートの話でもあったように2月末を締め切りにしており、委員会に振る必要があるので、3月1日か2月28日で委員には担当のまちづくりセンターのボックスを確認・回収をお願いします。それを受けて3月2日の個人一般質問終了後に委員会を開催して振り分けを行うのと、議会報告会についてももう少し詳細を協議できればと思っている。

三浦委員長

では次回委員会は3月2日木曜日、一般質問終了後ということで

スケジュールをお願いします。

もう1点、最後にと言っていた議長なんでもメールと読者アンケートについて。今はしまね電子申請サービスをつかってオンラインで回答できるようにしている。読者アンケートについてまず紙面を使ったアンケート用紙は廃止する。それにかわってアンケート用紙をアンケートボックス横に常設することは決まった。今までしまね電子申請サービスを使っていた部分をどうするかというときに、受付をするとなると自由にご意見を寄せてくれということになる。今の議長なんでもメールと機能が重複するのではと思っている。そのあたり皆はどう思うか。今、議長なんでもメールは議長が見ている。あくまで議長宛てであり議会宛てではない。読者アンケートも議長なんでもメールに寄せるか、仮称だが議会なんでもメールというように、議会宛てオンライン目安箱的なものにリニューアルするか。あるいは第3案があるか。両方残すとどちらを使ったらよいのか難しくなるし、機能が重複する部分が大いにあるかと。議長なんでもメールで受け付けるようにすれば、オンラインのほうはよいのではということであれば、単純に今の機能をそのままなくして、紙でアンケートボックス、それと議長なんでもメールというように。議会宛てに何かというのも議長が受けられるのかどうかというのはあるが。

小寺書記

意見を聴く手段として紙とオンラインがあると思うが、ボックスに例えばQRコードを示し、紙で書かなくてもご意見が寄せられると。そのQRコードの宛先を議長なんでもメールにすることもできるかと思った。

三浦委員長

アンケートボックスと書いて、メールは議長なんでもメールへという形なので、名称が違うことが問題なければそのままよいし、議会なんでも目安箱とか、そういう名称にして紙は各まちづくりセンターに置いている、メールもこちらに寄せてくれということで、名称を統一していく形にしたほうがわかりやすいのかと。そのあたりはどうか。変えなければいけないというのはあるので、この委員会だけでそれを協議してよいのか、もちろん議長団に相談しなければいけないものなのかと思う。こちら側の活動と、全体的に議会としての取組になるので、そのあたりは相談する価値はいずれにせよあると思う。議長なんでもメールを残してアンケ

村武副委員長

ートボックスで聞くのでよいということであればそれでも。

今までの読者アンケートでいただいた意見を委員会に振り分けて協議してもらっていた。今度からまちづくりセンターへ設置して用紙をいただくが、それは今までと同じような扱いになると。

オンラインのアンケートも紙ベースと同じように委員会に振り分けていた。議長なんでもメールに届いたら委員会に振り分けはしなのか。

小寺書記

今の枠組みではそういうことになっている。議長なんでもメールは議長以外の議員が見ることはあまりなく、議長が回答している。どのような意見があつてどのように回答したかはホームページに載せている。

河上局長

今まではそうだが今後それらを合体するとか、市民にとって議会も議長も区別がわからず、とにかくそこに入れられるとなれば、内容によって最終的には議長名で返すにしても、最初に所管委員会の委員長なりに見てもらい、委員会でも話し合つてあげてもらうようなやり方もできるのかなと思うのだが。

三浦委員長

そうすると当面アンケートボックスに当面設置するのは、その切り替えがあるのでできるだけ早く整理しなければいけないのだが。今日の時間では決定というわけにいかないと思うので、どういうスケジュールで進めたらよいか。

小寺書記

3月2日の委員会で改めて、議長なんでもメールの取扱いをどうするか、目安箱とのバランスをどうするかみたいなことをまた協議したい。議長団と正副委員長とが話す形でよろしいか。

三浦委員長

では次回委員会までに正副委員長が議長団と事務局とも整理して、こういう形でどうだろうかということのを皆に示しながらご意見をいただく形でどうだろうか。

小川委員

結局読者アンケートをどう扱うかということだと思う。それと議長なんでもメールは趣旨が違う気がする。ボックスにQRコードがあり、それを読み込めば宛て先が議会広報広聴委員会になっているとか、そういう形にされるならだが。紙面にもアンケートに対するご意見はこちらと誘導する先を議会広報広聴委員会にする形のほうがよい。議長なんでもメールとは趣旨が違うので。読者アンケートは読者アンケートとして続けるほうがよい気がした。

大谷委員

窓口は一つでよい。その中で例えば、議長宛てとか議会だより

についてとか、選択肢を設けた上で発信してもらえば、受けとめる側には分かれた状態が入ってくる。そういう形の対応であればこれまで同様にできるかと思う。発信側は二つもあるとわかりにくいので、議会宛ての窓口は1本でよい。名称は今後の協議かと思う。

三浦委員長

今いただいた意見を参考に、案を議長団とも相談して整理した上で、皆にお諮りすることを次回以降させていただきたい。また協議をお願いする。

小寺書記

ボックスをまた置くことの兼ね合いもあってのことだが、3月に回収していただいて、4月1日に皆にまた改めて置いていただければというイメージが私はあるので、それまでに詰めていければと思っている。

三浦委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

では議題が終わったので以上で議会広報広聴委員会を終わる。

[15時 33分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀